

平成 27年 1月 15日 00204号

編集者:佐藤 寿春

北見武道通信

北見市幸町 8丁目 4-4(佐藤整骨院内)

NPO 法人北見市武道振興協会事務局発行

直通:090-5986-0839

代表:0157-22-2212 Fax:0157-23-0581

satou.toshiharu@navy.plala.or.jp

ニュースレター【柔道情報】北見市柔道協会鏡開き！！

1月11日(日)午前10時～12時まで、北見市武道館(道場1)に於いて、北見市柔道協会による「鏡開き式」が行われました。北見市武道館には柔道協会の他、傘下となる各少年団や高校生も参加、約 200 人が鏡開き初稽古を行いました。先ず、佐藤壽春会長の「元気で怪我無く達成感のある一年に」と選手を激励しました。その後、入念な準備運動を行い北見市柔道協会の合同稽古が始まりました。道場内は熱気に包まれ気持ちのいい汗を流していました。父母の見守る中、最後に小学校5年生の中澤完太選手と芝田賢選手による「講道館投の形」が披露され、柔道指導者や関係者を領かせていました。



【弓道情報】北見市弓道会射初会開催！

平成27年の北見市弓道会射初会が、1月12日(月・成人の日)に午前10時より北見市武道館弓道場を会場に、約 30 名の関係者が集まり開催されました。北見市にとって三度となる大雪が前日の夜間から降り続いて生憎の天候となりましたが、緊張感のなかにも穏やかな雰囲気の中で弓をひいておりました。当日参加していた会員からは、「とても綺麗で素晴らしい武道館で日頃から練習させていただいてありがとうございます。今日くらい雪が降っているとチラついた雪で的が見えにくいので大変ですが、鍛錬の成果が出せればと思います」との声を頂きました。午後1時から、研修室にて平成27年最初の役員会が開催されました。



連載 「武道宝鑑」 第1弾 野間清治 <武道の徳>

<武道の徳>11-⑦

太刀は無くとも、心が出来て居ればよい。剣と剣の戦いでもなく、腕と腕の戦いでもなく、『心と心』の戦いである。丁々発止の響はなくとも、丁々発止の響以上のものが、この間に在るのである。『我は大納言であるぞ』という古人の訓えは、敵を小者と侮るのではない、我の腹を斯の如く持つべきを訓えているのである。気がまえ、腹がまえである。さらに敵が大納言である場合、『我は大將軍であるぞ』というが如き訓えは、我々の處世の上になんか役に立つかわからない。尚、先手先手の考へ、先先の先の考へ、攻勢の考へ、捨て身の考へ、懸待一致の考へ、敵の刀を抑える、敵の心を抑える、苦手苦手と修行すれば、遂に苦手無きに到るなどという訓えも亦我々日常の間に處世の上になんか役に立つかわからない。弟子は、ある意味に於いて、師の師である。及ばざる敵に対しては、ただ身を捨てるの一手あるのみ。勝の中に敗けがある、敗けの中に勝がある、千策萬術も懸引としてある程度其の必要を認めぬ事もないが、小手と見せて面を打つというような事は、一段上手からは直ぐ看破られて、拙なき戯れとしか思われぬ、世上の権謀術数の如く低い程度の事しか考えられなくなる。

つづく